

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100314		
法人名	社会福祉法人じねん		
事業所名	グループホーム寿楽(寿ホーム)		
所在地	上川郡当麻町4条西2丁目1-10		
自己評価作成日	平成30年8月13日	評価結果市町村受理日	平成30年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0173100314-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=0173100314-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りを畑や草花に囲まれ四季の移り変わりを楽しみながら生活ができ、地域の方との交流が常にあり笑いの絶えない生活を送ることができます。一人ひとりがのびのびと健康に生活し、ご家族に安心して頂けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は田や畑に囲まれた田園地帯に位置し、大雪山連峰の旭岳を望み、役場、消防署、体育館も徒歩圏内にあり利便性と自然に恵まれた環境にある。また、向かいにはコンビニエンスストアがあり、広い駐車場は災害時の避難場所として協定を交わしている。地域住民、町とは良好な協力関係があり、事業所の納涼祭には家族のみならず地域住民やボランティア、町の職員も訪れ大きな行事になっている。地域住民とは定期的に交流し収穫の時期には沢山の野菜や果物が届けられる。また、近隣の幼稚園からは定期的に園児が来訪したり、幼稚園の運動会に招待されるなど交流している。事業所理念に「のびのびにここにこ・楽しく・・・」を掲げ「介護20か条」を作成し、職員は笑顔で利用者との会話を大切に利用者本位のケアを実践している。管理者はこの理念を大切に職員が働きやすい環境を作り、利用者が自分らしく地域の一員として地域に支えられる関係を築きながら、地域を支える事業所として期待されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎日唱和し、理念に基づき実践につなげています。	年度初めには理事長、総合施設長が理念や介護20か条について職員研修を行い、毎朝のミーティングで唱和し、職員で共有しながら日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の幼稚園の定期的来所、ボランティアの方々との交流があり、日々地域と密着した日常を送っています。	地域住民から野菜や果物が届くなど、日常的に交流がある。定期的に幼稚園児が来訪したり、運動会やクリスマスに招待されて交流している。地域のボランティア(カラオケ、踊り、蕎麦打ちなど)も頻繁に訪れている。役場の認知症講座に講師として参加し地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭、クリスマス会等の行事の参加を頂きながら理解を深めて頂いたり、地域の行事への参加をさせて頂くことで認知症への理解を深めて頂けるようにしています。認知症サポーター講座を開催しています。オレンジカフェの行事に参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議等を通して行政・民生委員・ご家族の方からの声を聞かせて頂き向上に活かしています。	役場職員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族などが参加し年6回定期的に行っている。会議では事業所の現状報告と利用者の状況報告などを行って、事業所サービスへの意見、助言等を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加させて頂きサービスの質の向上に努めています。町との連携にも努めています。	運営推進会議には町の職員が参加して指導、助言、情報を得ており、管理者も地域ケア会議に参加して日常的に協力関係を築いている。町とは必要な時すぐ相談出来、事業所のお祭りにも参加するなど協力関係が出来ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないこと、基本と考え心のこもったケアを提供出来るよう努めています。	各種の研修で全職員が身体拘束の弊害を理解し、身体拘束は行わないケアを実践している。夜間などは見回りを多くしたり、利用者の動きを感じ取るよう工夫している。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修、外部研修を通して虐待防止について学ぶ機会をもち、現場のケアで虐待につながる事のないよう努めています。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方もいらっしゃいますので、活用して生活して頂いております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問に感じていることやご希望等をお聞きし理解、納得して頂けるよう説明し、不安なく利用して頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・ご家族の意見要望をお聞きし取り入れながら運営に活かしていけるよう努めています。	利用者は日々の会話を通して外出や食事など希望を伝え、出来るだけ希望に添った支援をしている。また、家族からは来訪時や家族会総会や運営推進会議において意見を聞き運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との個別面談を行い、意見や提案を聞きながら職場環境等に反映できるよう努めています。	管理者は職員が普段から意見、要望を言い易い雰囲気を作り、年1回職員と面談を行い意見や提案を聞いている。又、毎月の会議や日々のケアの中で職員の意見、気づきを取り入れケアに活している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握をし、職員一人一人が目標を持って働けるよう環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、研修内容を内部研修で勉強会を行い、一人一人のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の受け入れや、勉強会への参加を通し同業者との意見交換を行いサービスの質の向上やネットワークを広げられるよう努めています。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時、ご本人やご家族のお話をよく聞き、安心して入所して頂けるよう関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前よりご家族の不安や要望の聞き取りを行い、不安なく利用できるよう関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時再度お話をお聞きし、適切な支援が行えるように対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活していると感じて頂けるよう、支え合えるような関係作りを行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご協力を得ながら、ご本人とご家族の絆を大切に支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方、お友達が気軽に面会に来られるよう、心配りや外出等への柔軟な対応をおこなっています。	家族や近所の方が気楽に来訪しやすいように面会時間を制限していない。町の行事(敬老会やお祭り)に出掛け、これまでの関係が途切れないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで交流できるよう運動・レク等に集まり交流をもち共に支え合えるような関係作りを支援しています。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係を大切にしながら、ご家族との関係は続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中でご本人の希望・意向の把握に努め、職員間で話し合い検討を続けています。	日々の関わりの中で利用者の思いや希望、意向の把握に努めている。職員が気づいたことは職員間で共有し、又、家族からも聞いて希望に添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりケアマネジャーを通じ、ご本人の生活歴を把握しケアに活かせるよう対応しています。また、ご本人からもお話を伺いサービスに活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティング、毎日の申し送りの中で一人一人の現状の把握を行っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の記録をさせていただき、毎月の経過記録・3ヶ月でのモニタリングを行いながら現状に即した介護計画を作成しています。	利用者3人に対し職員3人の担当制にし、毎月1人ずつ職員が代わる体制にし、独自のアセスメントシートに記入し職員全体で話し合い、モニタリングしている。通常3か月に1度、状況に応じてその都度介護計画を見直して家族に同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録を活かしながら、経過報告・モニタリングを行い介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリ・社会福祉士の協力を頂きながら支援させて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季を感じながら、地域の方に声かけをして頂いたり、収穫の参加をしたり心豊かな生活となるよう努めています。緊急時は早期対応を行い、ご家族の方に安心して頂けるよう対応しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的を受診し一人一人に合った支援を受けて頂いております。	利用者、家族の希望するかかりつけ医に受診出来るように支援している。協力医の受診時は職員が付き添い結果は家族に報告している。事業所に看護師もおり、かかりつけ医と連携し対応している。	



グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の中で必要な事を看護師に相談し、個々の利用者が適切な受診や支援を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報交換や連携に努め、現状の把握を行い安心して治療が受けられるよう、早期退院となるよう病院関係者との関係作りを努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方についてご家族と話し合いを行い、さらに体調の変化に応じて報告、話し合いを行い情報の共有をし、よりよいケアを提供させて頂けるよう取り組んでいます。	入居時、看取り指針に基づき、利用者、家族に説明し理解を得ている。重度化が認められたときは、事業所としての対応の限界を示しながら本人、家族、医師などと話し合い、看取り、医療機関に入院する等、より良いケアの実践に向けて希望に添えるよう支援に取り組んでいる。	利用者の高齢化と共に重度化や看取りが増加して行く事から、看取り時の対応を深めていくために医療関連専門職と連携し、職員教育、研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急の講習を行い、緊急時に落ち着いて適切に対応できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の皆様にも参加頂き、共に避難訓練を全職員で行っています。	消防署の指導の下、年2回夜間想定を含めた避難訓練を実施している。また、自然災害の訓練も行っているが、今回の地震時には近隣の建築屋と協定を結んでいたために、停電時は発電機が届き無事に過ごす事ができた。災害時等には近くにある法人が運営するオレンジカフェが避難場所になっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し思いやりのある声掛けを行っています。	職員は内部研修などで「本当の介護」とは何かを研修し、利用者の尊厳を傷つけないように言葉遣いに特に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	豊かな生活が出来るよう、ご本人の希望に応じ自己決定して頂けるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、希望に添って過ごして頂くようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候、季節にあった服装の支援を行い、その人らしさが活かせるよう支援しています。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえや食器洗い等、利用者と共に 行っています。	家族や近隣の住民から届けられた季節の食材を献立 に取り入れ、利用者と共に調理している。冬には月1 回お寿司の出前を頼む等利用者の楽しみになっている。 誕生日には希望を聞いて赤飯や茶わん蒸しなど 食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	利用者に合わせた量や栄養の提供、水分を無 理なく摂取して頂けるよう、ご本人の好まれる物 を用意し提供しています。摂取量が明確になる よう表に記載し対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人 ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを している	毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の確認も行っ ています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの 排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握し、可能な限りパット等を使 用しないで、トイレでの排泄となるよう誘導等の 対応を行っています。	入所の時におむつを使用していた利用者も今は外し て布パンツやパットを使用しており、自立排泄に向 けて支援している。また、排泄パターンを把握し声掛け や、さりげなくトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り 組んでいる	季節の食材を工夫し、水分・繊維物の摂取、運 動を取り入れ予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽 しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めて しまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を聞き、入浴前の体調の確認を 行い、ゆっくりと入浴を楽しんで頂くよう対応して います。	週2回を基本として入浴しているが、利用者の希望や 身体状況に合わせて入浴を支援し、時にはシャワー 浴にしたり、その時々希望に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援 している	ご本人に合わせて身体を休めて頂く対応を行っ たり、夜間良眠につながるよう楽しみながら身体 を動かして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	成分表の確認を行い、薬の変更時は体調に変 化がないか見守りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽し みごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見極め役割を持って頂けるよう対 応し、楽しんで生活していただけるようにしてい ます。		

グループホーム寿楽(寿ホーム)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に制限はなく、利用者の希望に添ってご家族や地域の方の協力を得ながら支援しています。	事業所の前には広場があり、利用者は日光浴や散歩をしている。花見やドライブに行ったり、町の敬老会や盆踊り、家族とお墓参りに出掛けている。法人のオレンジカフェで開催されるコンサートやカラオケ、介護予防教室(ふまねっと)に参加して楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の管理となっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望される時に電話をかけられています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を取り入れた空間作りを行っています。ホールで皆さんと音楽を聞かれたり、テレビを見たりされ楽しんで頂くほか、思い思いに時間を過ごせる空間作りを行っています。	玄関、廊下には季節の花や手づくりの作品が飾られ、居間は明るく広くて、温・湿度は適正に管理されている。食事テーブルやテレビの前にはゆったりと寛げるようソファや椅子が置かれ、利用者はテレビを見たり会話をするなど思い思いの場所で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員で過ごして頂けるソファの他に、個々にゆっくりと過ごして頂ける場所を設け、居心地の良い場所の提供を行っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と共に思い思いにお部屋を作られています。	洗面台、ベット、防災カーテン、物置台が備えられ、仏壇やテレビ、ソファなどを持ち込み、思い思いの飾り付けをしている。どの部屋も掃除が行き届き居心地良い場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・廊下・居室内では手すり等を設置し自立されて生活を送って頂けるよう支援しています。		